

# 年頭のごあいさつ

横河電機健康保険組合  
理事長 松井幹雄



## 新年明けましておめでとうございます。

事業主ならびに被保険者の皆さまには、お健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

旧年中は、当健康保険組合の事業運営に格別のご支援とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、厚生労働省が発表した医療費動向によると、平成29年度の概算医療費は、2年ぶりに増加し、42.2兆円となり、前年度比9,451億円増と過去最高となり、また、国民一人当たりの医療費も過去最高となってしまいました。医療費増加の主な要因は、人口減少により0.2%の引き下げ効果があったものの、高齢化の進展で1.2%膨らんだほか、医療の高度化などで1.3%押し上げられ、前年度からの伸び率は2.3%にもなりました。

一方、平成29年度決算見込における健康保険組合全体の状況を見ると、黒字とはいえ前年の43.4%減となり、赤字組合数は全体の41.6%、高齢者医療の納付金負担割合が保険給付費、納付金の義務的経費の50%を超える組合数が35.2%にもなる一方で、被保険者一人当たりの納付金額は、高齢者医療制度がスタートする前の平成19年度と比較すると45.1%も増加しています。これらの背景には、医療費の増加のほか、平成29年度からの後期高齢者支援金の全面総報酬割と平成29年8月からの介護納付金への総報酬割導入の影響があると考えられ、今後健康保険組合の負担はますます重くなることが予想されます。

そのような環境の中、当健康保険組合の納付金・支援金も平成30年度予算ベースで保険料収入の51.6%と半分以上を占め、現役世代の医療給付を含めると97.7%にもなります。そのように非常に厳しい状況ではありますが、当健康保険組合では、特定健診・特定保健指導をはじめ、人間ドック、生活習慣病健診などの疾病予防事業やスポーツクラブ利用補助、チャレンジウォーキングなどの健康維持・増進事業にも積極的に取り組んでまいりました。さらにコラボヘルスとして事業主と協働で「メタボ予測分析」と「非メタボ（重症化予防）対策」を実施、対象者の方にはその方の生活習慣改善に向けた専門職的確なアドバイスを記載した「アドバイスシート」を送付することで皆さまの健康に対する気づきを促し、生活習慣を見直す支援をしてまいりました。今回のけんぽだよりでもご報告していますが、平成29年度の特定健診・特定保健指導では、特定健診受診率85.4%、特定保健指導実施率44.1%と共に健康保険組合の全国平均を大きく上回っています。今年もこれまで以上に受診しやすい環境を整えてまいりますので、皆さまも疾病の早期発見のためにも積極的に受診されますようお願いいたします。

また、平成30年度より健康保険組合と事業主が協力して、皆さまの健診データ・レセプトデータを分析・活用することで皆さまの疾病予防、重症化予防、健康増進、ひいては医療費の抑制を目指す「データヘルス計画」第2期がスタートしました。今後毎年6月に国へ前年度の実績報告をしていくこととなります。また、第3期特定健診・特定保健指導もスタートし、現在対象者の方に特定保健指導を実施しております。

今年も皆さまの健康づくり、健康意識向上のための保健事業を事業主と連携しながら積極的に推進してまいりますので、皆さまも一年に一度必ず健診を受診することでご自身の健康を振り返り、積極的に健康の維持・増進に努めて頂くようお願いすると共に、引き続き健康保険組合の事業にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、被保険者の皆さまとご家族の方々の益々のご健勝をお祈り申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

平成31年 元旦

